

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600022	
法人名	大西食品株式会社	
事業所名	グループホーム正心	
所在地	徳島県三好市井川町吉岡141番地4	
自己評価作成日	平成23年12月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top_do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成24年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の意思を尊重し、時間を決めず、好きな時に好きなことができるよう支援している。医療機関と密に連携を図って、利用者の心身の健康管理に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>一日のおおまかなスケジュールは決まっているが、職員は利用者の体調や意思を尊重し、自由に過ごすことができるよう支援している。かかりつけ医と連携を図って健康管理に留意している。また、歌や言葉遊びを取り入れた口腔ケアなどを楽しみつつ行っている。利用者一人ひとりの好みや要望、体調等に応じた食事量や食事形態等に配慮している。食器や食材、季節感、地域性等の面において様々な工夫を行っており、家庭的で楽しみのある食生活の支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			正心 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示している。利用者が、住み慣れた地域でその人らしく心から落ち着いた生活が送れるよう、職員はつねに心がけてケアに取り組んでいる。	管理者と職員は、利用者が住み慣れた地域でその人らしく落ち着いて生活を送ることができるよう、朝や夕方の職員交代時に理念を確認している。職員間で理念を共有し実践に繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民が気軽に立ち寄ることができるよう、職員は明るい雰囲気づくりに努めている。催し物の案内や地域活動に参加している。	代表者は、自治会に加入して事業所の説明を行ったり、地域の方へ来訪を依頼したりして、交流を促すよう努めている。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしている。また、野菜や果物の差し入れがある。事業所主催のマジックショーや防災訓練等の各種行事への参加もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県や市からのお知らせや事業所発行のお便りを地域住民に配布している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や行政機関の担当者等を招き、事業所のサービスの質の向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。参加者から地域の行事や催し物等の情報を得たり、事業所の運営面に関する意見を出してもらったりして、双方向的に話しあっている。出された意見等をサービスの質の向上に活かすよう取り組んでいるが、話しあった内容を記録するまでには至っていない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろから、市担当者から細かな指導や的確なアドバイスをいただいている。	日ごろから、市主催の各種会議等に積極的に参加し、市担当者との関わりを大切にしている。事業所の実情や困りごとなどについて相談し、様々な情報や意見を得ている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	手引きを活用し、日ごろから職員間で話しあっている。利用者の行動や思考の把握に努め、家族の了承を得たうえで支援している。	年1回、身体拘束のない支援に向けて研修を開催している。本人の気持ちや行動をよく把握して見守りに努め、ともに行動する姿勢で支援している。気づきカードを作成し、話しあいと工夫によって安全に安心して暮らすことができるよう支援している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、利用者の心に届く声かけや態度等に留意し支援しており、日々のケアの内容や利用者の体調等を管理者に報告している。現在、虐待に該当する事例は無い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、職員が権利擁護に関する制度を理解できるよう説明を行っている。現在、制度を活用している利用者はいないが、必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に、契約内容や重要事項にそって詳しく説明している。また、契約締結時に再度説明を行って、理解を得られるよう努めている。契約内容に変更がある場合はそのつど説明し、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の不満や意見は、直接聞いたり、意見箱を設置したりして対応に努めている。出された意見等は、全職員で話しあって運営やケアに反映している。	日ごろから、利用者との関わりのなかで、意見や要望等を把握している。家族の来訪時には積極的に話しかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めている。利用者や家族より出された意見や要望は、全職員で話しあって運営面に反映するなどして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりから直接話を聞き、運営に活かすよう努めている。	日ごろから、代表者と管理者は話しあいを重ねている。職員は、日々の生活のなかで気づいたことや疑問、提案等を気づきカードに記入し、代表者や管理者へ伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入ることにより、職員の気持ちに近づくことができるよう努めている。各種手当を設けたり、職員一人ひとりが向上心をもって働くことができるよう職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務中・外にかかわらず経験者が指導している。事業所内・外の研修に積極的に参加できるよう配慮し、その他の資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の事業所見学や意見交換を行い、運営やケアに反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人にお会いして不安等の把握に努めている。信頼関係を構築し、安心感をもっていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況や家族の困っていることなどを聞いている。必要なケアや希望に応じたサービスが提供できるよう話しあって信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、必ず本人や家族とお会いして、必要な支援を行っている。他サービスの情報提供にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのできることを把握し、得意分野で役割を担ってもらい、相互に気づかいや感謝の気持ちを伝えている。利用者から教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの利用者の体調や精神状態、活動状況を家族にお知らせし、きめ細かい対応に努めている。また、家族の協力のもと、専門機関への通院等の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が培ってきた関係を断ち切らないよう家族と相談している。馴染みの美容院に行ったり、事業所への来訪時の対応に配慮したりして、良い関係を構築できるよう努めている。	利用者一人ひとりの馴染みの理・美容院や商店等へ家族とともに出かけている。友人や知人の来訪時には、湯茶等の接待を行うなどして、来訪しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族等と相談したうえで、これまで培ってきた関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し、座る場所や過ごす場所を工夫している。また、一人ひとりの個性を尊重し、日ごろの生活やレクリエーションを行うなかで利用者同士が関わりをもてるよう職員が調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、利用者や家族を訪問したり手紙を出したりして、状況の把握に努めている。また、必要に応じて情報提供等の支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりのなかで、会話や表情等から思いを汲みとって意向を把握している。意思疎通の困難な利用者にも、職員が一丸となって向きあい、希望にそえるよう努めている。	日ごろから、利用者にゆっくりと寄りそって接している。利用者の会話や表情等から思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、家族や医師、関係者間で話しあって、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者から、生活歴や心身の状況を聞きとっている。また、日ごろの言動等から本人の好き嫌いを見極めて全体像を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な1日の流れはあるが、その日の利用者の心身状態等に応じて希望にそった暮らし方ができるよう配慮している。利用者の力を最大限に活かせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医師等に話を聞き、本人の心身状態や生活状況を把握したうえで介護計画書に反映している。	本人や家族、医師等の関係者間で話しあって介護計画書を作成している。また、3か月に1回、計画書の見直しを行っている。本人の体調変化や家族の希望、職員の気づきなどをもとに関係者間で話し合い、現状に応じた介護計画書の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの生活で気づいたことは、個人日誌と全体日誌に記録している。また、申し送りやカンファレンス時に活用している。特記事項は、事務所に張り出して毎日の実践に活かしている。介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人ひとりがそのつど柔軟な対応を心がけている。また、職員は連携し対応しており、利用者や家族の希望に応じられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際の意見交換や地域交流センターからの書籍の貸出、近隣の高等学校からのボランティア等、地域資源を把握したうえで利用者にとって必要な支援を効果的・効率的に活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意見や指示を仰ぐことのできる関係を構築している。多くの利用者が往診対応のため、利用者の身体状況はおおむね把握できている。家族の協力のもと受診の支援を行っており、詳細な診察内容や結果を情報提供してもらっている。	利用者のかかりつけ医の受診を支援している。医師の往診があり、利用者の身体状況をおおむね把握している。歯科医の往診もある。また、家族と相談したうえで、24時間体制で通院の支援ができる体勢を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日ごろの利用者の健康管理や状態の変化を見逃すことのないよう記録している。職員間で情報の共有を図り、全員で対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院に至った場合は、事業所で作成した様々な記録を医療機関に提出している。入院中は、頻りに足を運んで利用者の状態を把握し、医師と話しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ家族や主治医と相談して緊急時の対応を決めている。利用者や家族の希望にそえるよう努めているが、介護職員が不在の時間帯があるため、家族には事前に説明を行って承諾を得ている。	利用開始時の段階で、事業所に対応し得る支援について説明を行っている。事前に家族やかかりつけ医と相談し、重度化や緊急時の方針を共有している。利用者の体調変化時や家族から要望があった際などには、医師や関係者を交えて話し合い、方針の共有化に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。定期的に、事故発生時の対応訓練や応急処置訓練等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し全職員に周知している。利用者用の非常持ち出し袋や災害時に必要なものを備蓄している。また、防災訓練を実施している。地域住民に対し、避難時の協力を要請している。	年2回、消防署や近隣住民の協力を得て避難訓練を行っている。昼夜の火災や地震等を想定した訓練となっている。利用者用の非常持ち出し袋や水・食糧等の備蓄品を準備している。地域住民の協力体制も整っており、日ごろから避難経路や避難場所の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録を所定の場所で管理している。また、利用者の個人情報を外部へ漏らさないよう留意している。職員間の話しあいの際にも声量等に気を配るなどして利用者への配慮に努めている。	年1回、プライバシーの保護と個人情報の取り扱いに関する研修会を行っている。日ごろの関わりを通じて、全職員間で言葉づかいや対応方法を見直している。職員間で話しあいを重ねて、利用者の人格や人権を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	優しく穏やかな雰囲気で行うよう努めている。また、ゆっくりと利用者の話を聞き、自己決定できるように表情や反応を注意深くみ取って、希望に応じた支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで生活できるよう意向の把握に努めている。必要に応じて声かけや見守りなどの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室ごとに筆筒を配置し、利用者一人ひとりの好みにあわせて着替えができるよう配慮している。化粧や身だしなみも本人の希望にそって支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、できることはお願いしている。利用者の好む調理方法や献立を聞いて食事に反映するよう努めている。利用者の嗜好にあわせて一部の献立を個別化している。	利用者と職員で相談してメニューを決めている。利用者一人ひとりの能力に応じて、食材を切ったり、皮むきをしてもらっている。季節の行事や懐かしい食事を提供している。また、利用者一人ひとりの身体状態に応じた食事形態に考慮するなどして、食事が美味しく楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と調理師が協力して、栄養摂取や調理方法の工夫を行っている。水分摂取にも細心の注意を図り、水分摂取量の少ない場合には主治医と連携を図ったうえで対応している。毎日の食事・水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態にあわせて口腔体操やケアを行い、清潔保持に努めている。異変がある時には、歯科医と連携して、そのつど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方には、ベッドにいる場合でもトイレに誘導している。尿意の無い方には、声かけを行ってトイレへ誘導している。また、自尊心に配慮した言葉がけに留意している。	全職員が、利用者の尊厳に配慮したうえで排泄の支援を行っている。排泄チェック表を活用し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間には、定期的に声かけを行うことでトイレでの排泄を促したり、ポータブルトイレを活用したりして、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材の摂取や牛乳、ヨーグルトの飲用、適度な運動、腹部マッサージなどを実施している。必要な方には、主治医と相談したうえで、マグミット・酸化マグネシウムなどを使用し便秘を防ぐよう留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の身体・精神状態に配慮している。無理強いすることなく、声かけにより自己決定を促している。週2回は入浴してもらえるよう支援している。入浴剤の使用や季節によってはゆず湯なども実施している。	利用者の希望に応じて入浴できる体制を構築している。入浴を拒む方には、声かけを工夫することで週2回は入浴できるよう支援している。清拭やシャワー浴、足湯、入浴剤、柚湯等により、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の今までの生活リズムに応じた支援を心がけている。湯たんぽや氷嚢等の使用、添い寝、温かい飲み物を提供するなど、居心地よく休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況について、職員間での周知を徹底している。また、服薬に変更があった場合には、そのつど報告して記録を行い、全職員が理解できるよう努めている。薬は事務所で預かっており、1週間ごとに分けて薬シートで管理している。服薬時には、職員が手渡しを行い、飲み終えるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好や趣味を現有機能とあわせて考慮し、個別に応じた楽しみや役割を見いだして支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日には、デッキに出たり、散歩に出かけたりしている。お弁当を持って遠足に出かけることもある。家族の協力のもと、月に1～2回は外泊している利用者もいる。	天気が良く暖かい日には、車椅子の利用者も一緒に、庭や近隣へ散歩に出かけている。また、お弁当を持参し、ドライブや遠足に出かけることもある。家族の協力を得て散髪や買い物に出かけている。月1～2回、外泊している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			正心 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と話しあううえで、希望者は少額のお金を所持して買い物時に使用している。買い物は、希望に応じて職員と出かけたり、買ってきたりしてそのつど対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、固定のものと移動可能なものがあり、いつでもかけられるようになっている。手紙についても要望に応じた支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に、季節の花や置物を飾って心が和むよう努めている。窓には、防火カーテンを設置し、光と空気の流れを調節している。室内には、空気清浄器や加湿器等を設置し、インフルエンザの感染予防等に努めている。	居間には、腰かけ式の炬燵やソファ、食卓、椅子を設置している。利用者一人ひとりの居場所があり、思い思いにゆったりと過ごしている。季節の花や鉢植え、雛飾りなどを設置しており、居心地良く過ごすことのできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、畳やソファ、こたつ等を設置している。クッションやひざ掛け、枕も配備し、好きな場所で思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングと畳の居室があり、あらかじめ利用者や家族と相談したうえで決めてもらっている。ベッドや布団も好みにより対応している。家族の協力のもと、使い慣れたものを提供していただき、利用者が居心地よく過ごすことのできる居室の整備に努めている。	利用者や家族と相談したうえで、思い出の写真や品物を持ち込んでもらっている。利用者とともに植物や花のある部屋づくりを行っており、水やりが利用者の役割となっている。居心地良く過ごすことができるよう使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にスロープを設置しており、バリアフリーの環境整備を行っている。また、随所に手すりを設置しており、利用者が安全に歩行できるよう配慮している。洗面台は、車いす対応型のものを設置している。共有のスペースには、表示をつけることで分かりやすくしている。		